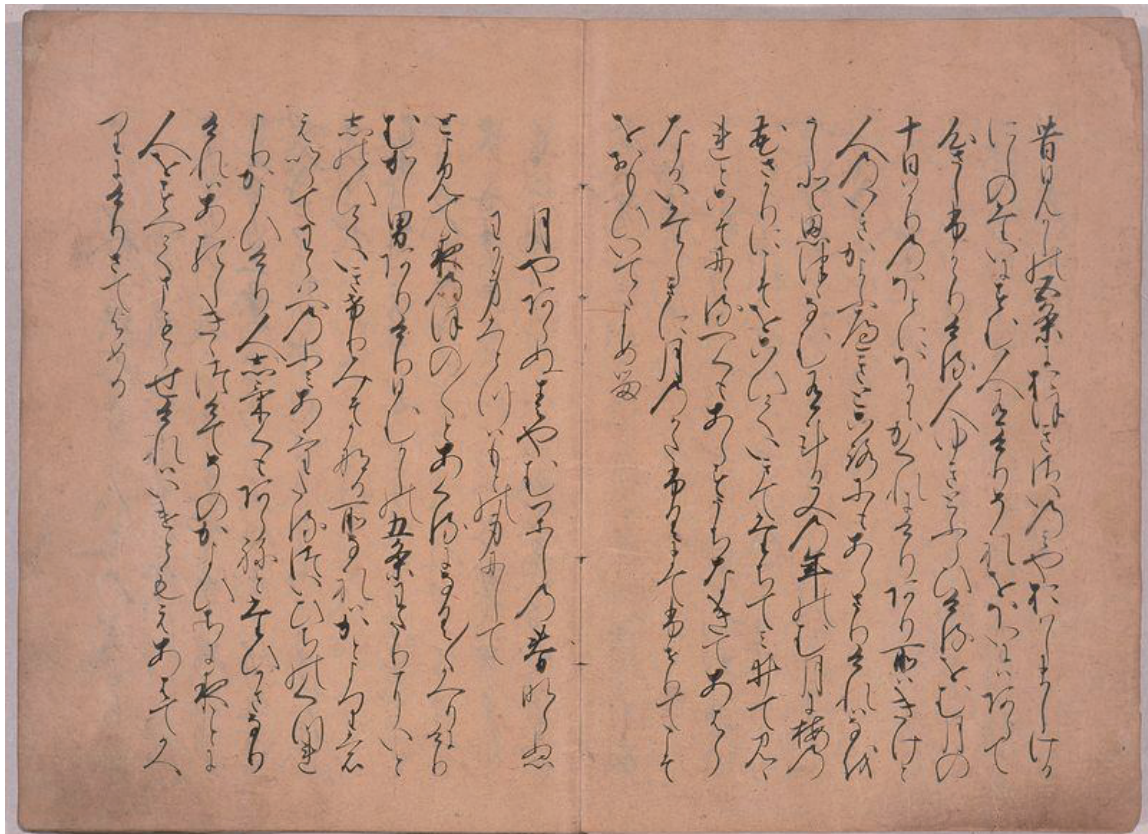




総合資料館だより

2010.1.1 No.162



伊勢物語 - 正月の涙 -

伊勢物語は、10世紀半ばまでに成立したといわれる歌物語です。「昔男ありけり」で始まる恋物語ですが、だれがその男であるかをぼかしているのが特徴です。もちろん、引用されている歌が在原業平のもので、この男は在原業平と自然とわかるようになっています。業平は、百人一首に収められた「ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川 からくれなゐに 水くくるとは」で有名な歌人です。

この写本は、室町時代中期の定家本系と呼ばれる系統のもので、写真の段は、恋愛相手（藤原高子と推定）が正月十日に手の届かないところ（つまり入内）へ行ったので、嘆き悲しんで詠んだ歌です。失恋して涙を流して歌を詠むとはいささか女々しく、草食系男子の走りのようですが、入内した相手を想ったのこととするとまた雰囲気が変わるかもしれません。

伊勢物語 - 正月の涙 -	1
平成22年知事年頭あいさつ	2
目 文献課の窓から「古活字版」	3
歴史資料課の窓から「古文書つれづれ 38」	5
歴史資料カレッジのご案内	6
次 東寺百合文書翻刻出版(7)のご案内、新規公開資料のご紹介	7
最近の収集資料から（平成21年9月～11月）	8
総合資料館収蔵品展のお知らせ 友の会事務局から 日誌 利用案内	10

平成22年知事年頭あいさつ



明日の京都づくりは「人づくり」から

京都府知事 山田 啓二

府民の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、厳しい経済環境と急速な雇用情勢の悪化が続き、年が明けた今も府内の雇用・経済情勢は依然として大変厳しい状況にあります。

このように冷え込んでいる府内の雇用・経済や生活を少しでも回復に導きたいとの思いで、京都府では平成二十一年度予算を「京都温め予算」と位置付け、当初予算から補正予算を通じ、積極的に生活弱者対策や雇用経済対策に取り組んでまいりました。今年もまず、府民の皆様の「雇用」と「生活」を支えるため、京都を温める対策に全力で取り組んでまいる決意であります。

このような対策を進めるに当たり、私は、これらが単なる一過性の対策に陥らないよう、「京都未来を担う人づくり推進事業」や「地域公共人材養成事業」を新たに立ち上げるなど、未来を見据えた「人づくり」対策を積極的に講じてまいりました。

「人」こそ京都の最大の財産であります。昨年開催いたしました「京都 知恵と力の博覧会」では、八百を超える事業の参加をいただき、多くの方々に京都の底力を見ていただくことができました。こうした京都の「人」が持つ知恵と力を未来に向けてさらに高め、世界に発信していくためにも、「人づくり」が基本になると考えます。

最近、「地域主権」という言葉をよく耳にしますが、地域主権を実現するのも「人」であり、住民自治であります。私は、三年前に「地域力再生プロジェクト」を開始しましたが、この地域力もまさに住民の力であります。今、地域の皆様が地域のために自ら行動を起こし、それを京都府が支え、さらに他の地域の活動と交流・連携することで新たな活動の輪が確実に広がっています。

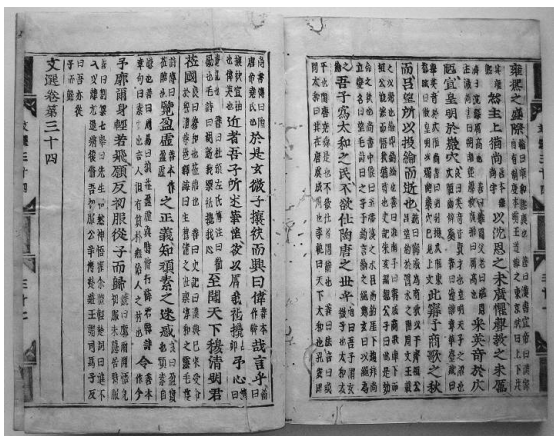
昨年はさらに、府民の皆様から身近な安心安全のための改善箇所を提案いただく「府民公募型安心・安全整備事業」を全国で初めて実施し、二千件を超える応募をいただきました。地域の安心安全を自らの目で見直していただき、ご提案いただきましたことに感謝申し上げますとともに、これらの取り組みを通じて、地域が自ら動き、支え合ういわば「共立」の芽が生まれていることを感じています。

京都が世界に誇る「日本文化」や「環境との共生」を礎に、私は、府民の皆様の生活を支え、「知恵と力」を共に高め合う府政によって、明日の京都を創っていくことができるものと信じております。今年も、府民の皆様の府政への積極的な参加を心からお願い申し上げます。

結びに当たり、この一年の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

古活字版 直江兼続の時代の活字印刷

平成21年の夏に開催した当館の展覧会「古典籍へようこそー直江版『文選』とそのなかまたちー」では、文武に秀でた智将、直江兼続が要法寺に依頼して刊行した『六臣註文選』を始め、当館所蔵の古活字版コレクションにスポットライトを当てました。



▲6世紀に梁の昭明太子が中国の優れた文章、詩を集大成して編纂した『文選』（この『六臣註文選』はのちに注釈を加えたもの）。

1 古活字版のはじまり

古活字版とは、日本において16世紀末から17世紀中頃までの約50年間に、活字を用いて印刷された書物です。

日本での出版印刷は、古活字版の登場以前は一枚板の版木で印刷する整版が中心でした。

朝鮮では15世紀頃には活字印刷が盛んに行われていましたが、文禄元(1592)年に豊臣秀吉が朝鮮に出兵した際、朝鮮の活字印刷技術を日本に持ち帰ります。また、16世紀後半にキリスト教布教のために日本で刊行されたキリシタン版は西洋の活字印刷技術によって印刷されました。

これらの技術をもとにして、日本で活字によって出版された書物が古活字版です。

秀吉の後に天下を統一した徳川家康は、治世のために学問を重んじ、儒学を中心とした書籍の出版事業にも力を注ぎました。

当時伏見にあった円光寺には足利学校の第9



▲当館所蔵「円光寺木活字」。古活字版の印刷に用いられた。



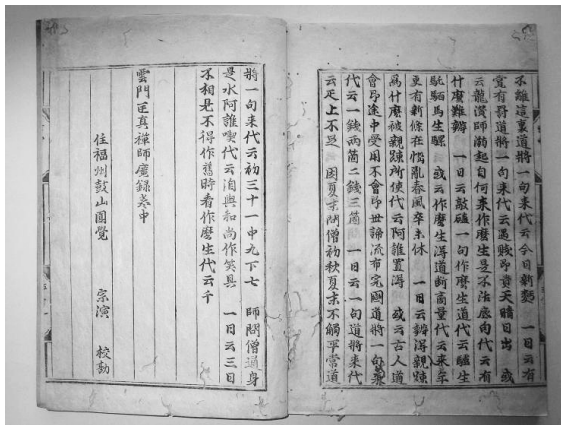
▲円光寺で刊行された『標題句解孔子家語』

世校主であった閑室元信を招き、木活字10万個を与えて『標題句解孔子家語』、『周易』など儒学の書物を出版させています。これらの書物は円光寺版、あるいは伏見版と呼ばれています。

新しい本を出版する際に、すべて彫り起こさなければならない整版印刷に比べ、活字を用いた印刷は、一度活字を彫ってしまったら、あとは活字を組み合わせるだけで新たな書籍の印刷ができ、手軽でした。そのため、古活字版はその後しばらく、わが国における出版の主流となりました。

2 古活字版の衰退

ところがこの古活字版は、約50年間で廃れてしまいます。導入後、一世を風靡した古活字版は、なぜ衰退してしまったのでしょうか？



▲妙心寺で刊行された古活字版『雲門匡真禪師広録』

あらかじめ彫っておいた活字を組み合わせるだけで印刷ができる活字印刷ですが、ページを印刷した後、新たなページを印刷するために、組んだ活字をバラさなければなりませんでした。

そのため、印刷した本に人気が出て増刷する必要が生じた時に、再度活字を組み直さなければならぬ、という弱みがありました。

また印刷面でも、1字ずつ活字を彫るため、活字を組んでみると、どうしても文字ごとに、大きさ・左右のバランス・印刷の濃淡などが不統一になりやすくなってしまおうという問題がありました。

そういった活字印刷の弱点のために、彫る手間はかかるものの、一度彫ってしまえば、あとは刷るだけでいくらかでも増刷ができ、印刷上の不揃いも出にくい整版に戻ったのではないかと考えられています。

3 古活字版がもたらしたもの

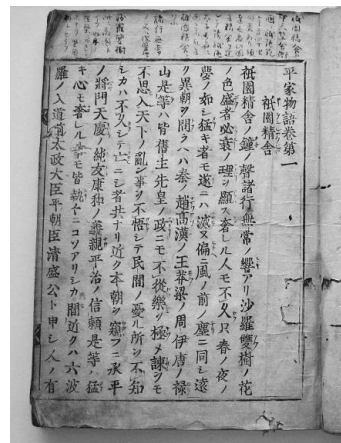
しかし、古活字版によって日本の印刷出版の世界が新たな局面を迎えたことも事実です。

古活字版以前の日本の出版では、寺院における仏教書や漢籍の刊行が中心で、物語や和歌などの文学や仮名で書かれた書籍はほとんど書写に頼っていました。

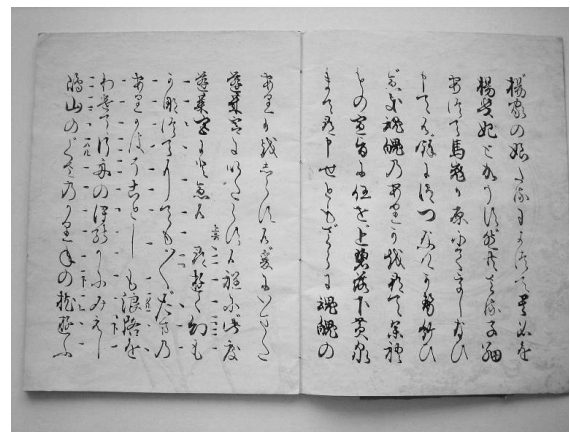
活字印刷技術の出現により、その身軽さを生かして、これまであまり出版されていなかった文学などの新ジャンルの本や仮名による書物を刊行し、読者層を僧侶から公家や武家にまで拡大したこと、そして読書人口が増えたことにより、商業としての出版業を成立させたことなど、

古活字版の果たした役割は大きいと言えます。

17世紀半ば以降いったん影をひそめてしまう活字印刷ですが、江戸時代後半には、藩校などの比較的小規模な組織で、教科書を中心とした書物を印刷するために活字技術が用いられました。これらは古活字版と対比して、近世木活字本と呼ばれています。



▲『平家物語』は、古活字版の中でも最も多く刊行された書籍のひとつです。『平家物語』には多数の異本が生まれましたが、この本は壇ノ浦の戦いの後に出家した建礼門院の後日談をまとめた灌頂巻を持つ一方流本で、漢字カタカナまじりの文で印刷されています。



▲嵯峨本『楊貴妃』

嵯峨本は、京都嵯峨の豪商角倉素庵や本阿弥光悦によって出版された書籍を指します。写真の『楊貴妃』は能の謡本ですが、雲母で装飾された豪華で上品な紙と、その上に印刷された流れるように美しくずし字の活字には、芸術作品としてのこだわりが感じられます。

(文献課 合田淳)

対句というもの

対句とは連語の形式が同じで、意義の対応する二つの句を並べる、修辞法の一つです。中国では平仄と押韻を伴う漢詩に多くみられ、一行五字からなる五言絶句の例を挙げれば以下のようなものです。

感^{そそぎ}時花^{ひょうそく}濺^{おどろかす}涙
恨^{おどろかす}別鳥^{おどろかす}警^{おどろかす}心 (杜甫「春望」)

動詞には動詞、名詞には名詞と、品詞を同じくする語が字数もそろえて対応し、文法的にも同じ構造となっています。散文でも、論語・莊子をはじめ史記などの著作に、四・六字からなり平仄などを伴わない四六駢儷体と呼ばれる文章法が発達しました。

日本では中国文化の輸入に伴って、漢詩や四六体の漢文の創作が行われましたが、独自の文学である物語などの散文にもこの技法が導入されました。以下はその例です。

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響あり
娑羅雙樹の花の色 盛者必衰の
ことほりをあらはす
(「平家物語」)

同じ四字熟語でも事物や理念を表すもの同士、また鐘に花、声(音)に色など、名詞の種類まで対応させているのが判ります。

文学におとらず、古文書などの「実用的」な文章においても、対句は重用されました。同義の、異語からなる句の反復は、文意を強調したいとき、また莊重・華麗な雰囲気醸すためには、効果的であったのです。

その例として「後宇多院^{いんのちようくだしふみ}庁下文」を見てみましょう。これは東寺の訴えに答えて、後宇多上皇の家政機関である院庁が、山城国拜師庄以下4カ所の所領を安堵したものです。東寺の根本「公驗=証拠書類」として最重要視され、大事にされてきました。発給主体は院庁ですが、文章のほとんどは引用されている「東寺三綱等^げ解」(三綱は寺内の実務に従事する寺官=下級

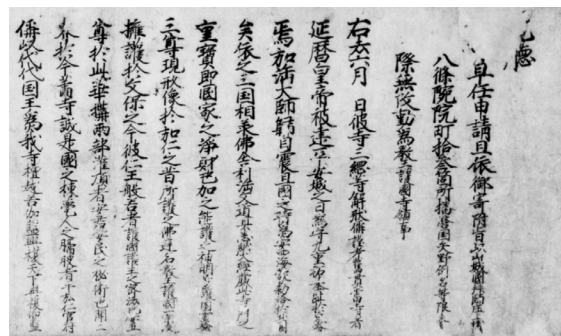
僧侶)のものです。最初の対句は本文二・三行目の

延暦皇帝被建平安城之日、為守九重、
□基跡於東洛焉、
弘法大師帰自震旦国之時、為安四海、
蒙勅給於北闕矣、の部分であって、

「延暦皇帝(桓武天皇)平安城を建てらるるの日」が、次行の「弘法大師震旦国(唐)より帰るの時」に対応しています。「平安城」に合わせて、中国を「震旦国」と表現しているのです。次に「九重(宮廷)を守らんがため」と「四海(天下)を安んぜんがため」が対応し、数字の使用で揃えています。対句とはこうしたものです。

さて、次の文言は「□基跡於東洛焉」です。

「九重」「基跡」の間の一字は「柘」に見えますが、これは石室・位牌を意味する名詞であり、こう読んでは意味が通じません。そこで対句の次行を見ると、対応する文言は北闕(宮城の北門)に勅給を「蒙る」となっています。これに揃えて、動詞の文字に読めばよいのです。大修館の「大漢和辞典」によれば「柘」という字があり、「ひらく」と動詞に読んでいます。「基跡を東洛にひらく」とは、基となる建築を東寺の地に開設した、となります。文字の解説上、品詞の見当がつくことは大きなヒントです。二句が照応し、表現を補い合うものが対句ですが、解説に当たっても効果を発揮するものでした。



後宇多院庁下文 (巻首)

東寺蔵

歴史資料カレッジ後期分のご案内

当館では平成21年度から、古文書、行政文書、写真など幅広い分野の館蔵資料を使用して京都の歴史に関する講義を行う「歴史資料カレッジ」を開催しています。

9月には前期分を行いましたがおかげ様でたくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。3月に下記要項により後期分の開催を予定しています。

ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。

平成21年度 歴史資料カレッジ

	回	月 日	タイトル	講師
後 期	④	平成22年3月7日(日)	御用状を読む - 旗本天野氏 上方代官森島家の文書から -	島津良子氏 (奈良女子大学講師)
	⑤	平成22年3月14日(日)	戦後京都の出発 - 占領軍の できたこと・できなかったこと -	福島幸宏(当館職員)
	⑥	平成22年3月21日(日)	中世の旅の一断面 - 東寺百 合文書より -	池田好信(当館職員)
時 間	いずれも14:00~16:00		定 員	200名
会 場	京都府立大学本館 合同講義棟3階 第3講義室 (京都市左京区下鴨半木町)			
受付期間	平成22年2月15日(月)~2月26日(金)			
そ の 他	前期・後期(全6回)通して全部受講して頂いた方には修了証を発行します。			

問い合わせ先・申込方法・申込先・受講料

問い合わせ先 京都府立総合資料館歴史資料課
住所 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4 (TEL.075-723-4834)

申込方法 ハガキ・FAX・メールのいずれかに①住所②氏名(ふりがな)③電話番号をご記入のうえ、下記宛先までご応募下さい。
なお、電話でのお申し込みは受け付けておりません。
ご応募は先着順に受け付け、定員を超えて受講していただけない方のみご連絡いたします。

申込先

- ・ハガキ 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館歴史資料課
- ・FAX 075-791-9466
- ・メール shiryokan-rekishi@pref.kyoto.lg.jp

受講料 無 料

会場には駐車場の用意がありませんので、公共交通機関をご利用ください。
(特にご事情がある方はご連絡ください)

その他に、地域に残る古文書などの資料の解説、整理取り扱いなどの講習のご要望があれば、職員が出張して行きますので、ご希望の方はお問い合わせください。

東寺百合文書翻刻出版(7)のご案内

「東寺百合文書」第7巻を刊行

当館では、所蔵している国宝東寺百合文書の翻刻事業を行っています。今年度、その第7巻を刊行しましたので、概要を紹介します。

翻刻は、文書を収納している箱(「イ函」「ロ函」「い函」「ろ函」のように呼ばれる)ごとに、片仮名の箱をイ・ロ・ハ…の順に進めています。この巻には「ニ函」の400点を収めました。

時期的には、室町時代の応永23(1416)年から戦国時代に至るものが大半です(少し無年号文書の中に南北朝期以降のものも含まれます)。その中でも、室町幕府奉行人や細川氏・三好長慶などの武家政権を支えた武士たちの書状類が多数含まれています。これらの文書の多くは無年号で、今回その5割に新たに年号推定を加えました。今まで無年号であるために、利用しづらかった文書がより利用しやすい資料になったと思います。今後の研究の進展が期待されます。

荘園に関係したものでは、山城国上久世荘や上野荘(共に現京都市内)・大和国河原城荘(現奈良県天理市)・若狭国太良荘(現福井県小浜市)・播磨国矢野荘(現兵庫県相生市)・備中国新見荘(現岡山県新見市)等の年貢収納に関する文書を多く収録しています。

また、60号に掲げました『東寺領諸荘園斗升増減帳』は枡の換算表と呼べるものです。中世においては全国統一の枡は使用されておらず、地域や領主によって異なりました。東寺領荘園の場合は17種類の枡が使用されていました。そこでこの『増減帳』によって年貢などの正確な数量を把握したのです。

第7巻の概要

書名	「東寺百合文書 七」
内容	ニ函400点
規格	A5版
頁数	452頁
定価	9,500円(本体価格)
発行者	(株) 思文閣出版
発行日	平成21年10月1日

新規公開資料のご紹介(行政文書)

京都府立総合資料館文書 116点

※当館開館時からの保存文書の一部です。

文化芸術室関係文書 114点

農業構造改善事業関係ほか資料 85点

※有期限行政文書として収集整理した資料を、テーマごとに順次公開の予定です。

(ご利用にあたっては、当館ホームページか閲覧室備え付けの目録をご覧ください。資料の損傷状況、個人情報保護の観点から閲覧に提供できない資料もあります。あらかじめご了承ください。)

❖❖❖❖ 最近の収集資料から(平成21年9月～11月) ❖❖❖❖

〈京都〉

関山慧玄禅師伝 正法山妙心寺開山 廣田宗
玄著 春秋社 2009 8,256,9p

新編福知山城の歴史 福知山市郷土資料館編
福知山市 2009 55p 寄贈

叡山と嵐山 叡山・嵐山電車 京都電燈株式
会社鉄道部[編]刊 [1930頃] 1枚

芝生への挑戦 緑あふれる校庭づくり 芝生
スクール京都編 ナカニシヤ出版 2009
7,183p

『第三高等学校関係資料』 解説・目録 京都
大学大学文書館編刊 009 191p 寄贈

平成女銚清音会十周年記念誌 十周年記念誌
プロジェクト編 平成女銚清音会 2009
48p 寄贈

舞鶴の山城 戦国時代を訪ねる 舞鶴山城研
究会[編]刊 2009 136p 寄贈

創立35周年記念誌 「京都府家畜畜産物衛生
指導協会創立35周年記念誌」 編集事務局
[編] 京都府家畜畜産物衛生指導協会 2009
94p 寄贈

守った放送の灯 KBS 京都再建への道 市
民と放送を考えるフォーラム編著 かもがわ
出版 2009 216p

古仏巡礼 癒しの旅 講談社編刊 2009
287p

小林かいちの魅力 京都アール・デコの発見
山田俊幸監修 清流出版 2009 159p

〈人文〉

大東急記念文庫善本叢刊 中古中世編9 連
歌 築島裕[ほか]編 大東急記念文庫 2009
746,31p

情報化白書 2009 日本情報処理開発協会編
増進堂 2009 353p

著作権白書 著作権情報センター附属著作権
研究所[編] 著作権情報センター 2009
213p 寄贈

神陵文庫 神陵文庫紅萌抄8 三高自昭会編
刊 2009 137,27p 寄贈

高松宮家伝来禁裏本目録 分類目録編, 奥書
刊記集成・解説編 [国立歴史民俗博物館編]
国立歴史民俗博物館 2009 2冊 寄贈

皇室制度史料 儀制誕生3 宮内庁書陵部編
纂 宮内庁 2009 3,373p 寄贈

圖書寮叢刊 九条家本玉葉12 宮内庁書陵部
[編] 宮内庁書陵部 2009 329p 寄贈

平安時代の宮廷祭祀と神祇官人 改訂増補
藤森馨編 原書房 2008 15,369p

彦根藩井伊家文書浄土真宗異義相論 「承応
の闘牆」を発端とする本願寺・興正寺一件史
料 平田厚志編 法藏館 2008 821p (龍
谷大学仏教文化研究叢書 20)

文化財と古文書学 筆跡論 湯山賢一編 勉
誠出版 2009 2,294p 図版11枚

古代日本の異文化交流 鈴木靖民編 勉誠出
版 2008 7,660p

飛鳥藤原京木簡 2(図版)・(解説) 奈良文化財研究所編刊 2009 2冊(奈良文化財研究所史料 第82冊・同別冊) 寄贈

院政期文化論集 1～5 院政期文化研究会編 森話社 2001～2005 5冊

中世裁許状の研究 大山喬平編 塙書房 2008 7,515,6p

鎌倉時代造像論 幕府と仏師 塩澤寛樹著 吉川弘文館刊 2009 6,350,10p 図版16p

日中美術考古学研究 山本忠尚著 吉川弘文館刊 2008 9,282,7p

無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》カタログ 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 東京国立近代美術館フィルムセンター・京都国立近代美術館編 東京国立近代美術館刊 2009 104p 寄贈

〈官庁〉

京都府綴喜郡衆議院議員選挙有権者名簿 京都府[編]刊 1932 75p

京都府相楽郡衆議院議員選挙有権者名簿 京都府[編]刊 1932 92p

犯罪統計書 平成20年 京都府警察本部刑事部刑事企画課[編]刊 [2009] 337p

わたしたちの伝統産業 1200年の京が育んだ手づくりの文化とところ 平成21年度版 京都市産業観光局商工部伝統産業課[編]刊 2009 28p 寄贈

京都府愛宕郡農會農事統計一覽表 明治38年末月調査 [出版者不明] [1906] 1枚

宇治市の教育 平成21年度 宇治市教育委員会教育総務課編 宇治市教育委員会 2009 205p 寄贈

京田辺市統計書 平成20年版 京田辺市総務部総務室編刊 2009 113p 寄贈

京(みやこ)をまもる 安全のまち京都をめざして 京都市消防局総務部庶務課[編]刊 2009 124p 寄贈

人間開発報告書 2007/2008 国連開発計画編 阪急コミュニケーションズ 2008 423p 寄贈

世界統計年鑑 平成21年日本語版 52集(2007) 国際連合統計局編 原書房 2009 836p

中高年者縦断調査 中高年者の生活に関する継続調査 第3回(平成19年) 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2009 338p 寄贈

地域保健・老人保健事業報告 老人保健編 平成19年度 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2009 617p 寄贈

地域保健・老人保健事業報告 地域保健編 平成19年度 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2009 713p 寄贈

賃金センサス 平成21年版第1～5巻 厚生労働省統計情報部編 労働法令協会 2009 5冊

総合資料館収蔵品展のお知らせ

京都府（資料館）が所蔵する貴重な歴史資料のうち、日頃目に触れていただく機会の少ない資料を展示する予定としております。ご期待ください。

期間：2月27日(土)～3月28日(日)

友の会事務局から

◎ 平成22年度「友の会」会員募集

- ◇会費 年額 2,000円（4月～翌年3月）
- ◇申込方法 所定の申込用紙兼払込取扱票に必要事項を記入の上、会費を郵便局に払い込んでください。
- ◇受付期間 1月6日(水)～3月19日(金)
- ◇詳しくは友の会事務局（総合資料館庶務課内 TEL.075-723-4831）までお尋ねください。

◎ 平成21年度の見学会を、11月6日(金)、13日(金)の両日実施し、76名の会員の皆さんの参加を得て、滋賀県長浜市の黒壁スクエアを散策しながら、長浜城歴史博物館、曳山博物館、大通寺を訪ねました。天候にも恵まれ、長浜の歴史・文化の一端に触れる1日でした。

一時は、新型インフルエンザの流行による見学会自体の開催見送り等も懸念されましたが、多くの皆さんに参加をいただき、無事終了することができました。

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌（平成21年9月～11月）

- 9/10、17、24(金) 歴史資料カレッジ
- 10/31(土)～11/29(日)
企画展「北山の歴史をふりかえる」
- 11/ 5(木) 府民講座「北山の都市計画」
- 11/ 8(日) 「古典の日」講演会
- 11/14(土) 北山魅力発見！探検ウォーク
- 11/21(土) 園城三花トワイライトコンサート
- 11/21(土)、22(日)
北山スタンプラリー、
収蔵展示室特別公開
- 11/22(日) 総合資料館書庫ツアー
- 11/26(木) 地域連携講演会&
パネルディスカッション

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、蔵書整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

〔1月～3月の休館日〕

- 1月1日(祝)～1月4日(月)、1月11日(祝)、
1月13日(水)、2月10日(水)、2月11日(祝)、
3月10日(水)、3月22日(休)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交 通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ⑧ 北山駅前下車
京都バス④⑤ ④⑥ 前萩町下車

*総合資料館メールマガジンにご登録ください
(登録はこちらから)

<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/maga.html>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

TEL (075)723-4831 FAX (075)791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。